

(英語版)

(アラビア語版)

令和二年十月

敵の敵は味方かそれとも別の敵か？ 複雑な中東の合従連衡と離合集散

## 一 問題ごとに敵と味方が錯綜する現代中東

今も昔も中東は紛争が絶えない。イスラエルとアラブの第一次～第四次中東戦争はその典型的なものである。最近のイスラエル(UAE)・バハレーンの和平締結により新たな段階を迎えたが、その他にも多くの問題が発生している。ざっと上げただけでも、シーア派イランとスンニ派アラブの対立、ムスリム同胞団の対応をめぐるカタールとサウジアラビアとの断交などイスラムに根差す問題、リビア及びイエメンにおける「アラブの春」以降の国内覇権争いはイラン、サウジアラビア、トルコ、エジプトなど地域の大国の代理戦争の様相を呈している。また最近では天然ガスをめぐる東地中海の大陸棚あるいはガスパイプラインがホットな話題となっている。その他にも長い歴史の経緯のあるクルド民族独立問題、シリア内戦とそれによる難民のEUへの殺到など人道的な問題がある。そして第二次大戦後の西欧と中東関係の軍事面の中核をなすNATOあるいは政治・経済面でEUをめぐりトルコが揺さぶりをかけるなど地域の安定を脅かす問題が頻発している。

1 / 9

これら個々の問題では当事者が敵と味方に分かれて争っている。そして対立する当事国を支援しあるいは同調する国がある。当事者にとって「敵の味方は敵」である。ところが支援国が別の問題では敵の支援に回ることも珍しくない。こうなると「敵の味方は敵」なのか、それとも「敵の敵は別の敵」なのか、敵と味方の区別が判然としなくなる。現代中東を外から見ると、同盟関係と敵対関係が一体どうなっているのか極めて分かりにくいのである。

本稿は個々の問題点について敵味方で対立する当事国及び支援あるいは同調する国家の関係を大まかに俯瞰し、その中で主要なゲームプレイヤーを演ずるトルコを取り上げ、同国が問題に関与する事情を概観する。これにより複雑な現代中東の合従連衡あるいは離合集散を解読しようとするものである。

## 二 紛争の諸様相とその関係国

### (1) 国家の独立・承認に関する紛争

(A) イスラエル・パレスチナ問題

【問題点】イスラエル国家の承認及びパレスチナ国家の独立。

【当事者】イスラエルとパレスチナ(PLO)。

【支援または同調する外国】イスラエル側：米国、パレスチナ側：アラブ諸国及びOIC(イスラム協力機構)加盟国。

### (B)クルド民族独立問題

【問題点】トルコ、シリア、イラク及びイラン・カ国にまたがって居住するクルド族と各国政府との独立あるいは自治権をめぐる紛争。

【当事者】クルド族、PKK(トルコ)、YPG(シリア)、クルド愛国同盟(イラク) 対 トルコ、シリア、イラク各国政府。

【支援または同調する外国】(特になし)

### (C)北キプロス独立問題

【問題点】トルコ系住民が居住するキプロス島北部の分離独立問題

【当事者】キプロス 対 トルコ

【支援または同調する外国】キプロス側：ギリシャ。北キプロス・トルコ共和国承認はトルコのみ。

### (三)宗教に関する紛争

#### (A)シーア派とスンニ派の対立

【問題点】イスラムの二大派派シーア派とスンニ派による政治的・軍事的主導権争い。

【当事者】イラン 対 サウジアラビアなど中東湾岸諸国

【支援または同調する外国】シーア派反政府勢力：レバノン・ヒズボラー、イエメン・フーシー派

#### (B)ムスリム同胞団の評価をめぐる対立

【問題点】スンニ派ムスリム同胞団がテロ組織かどうかをめぐるGCCが内部対立

【当事者】エジプト／サウジアラビア／UAE／バハレーン 対 カタール。

【支援または同調する外国】カタール支持：トルコ。

### (3)内戦(代理戦争)

#### (A)イエメン内戦

【問題点】「アラブの春」(2011年)で失脚したサーレハ大統領の後継をめぐる主導権争い。

【当事者】首都サナアを含む北部を支配するフーシ派 対 アデンを臨時首都とするハーディー暫定政権及び南部独立派(南部暫定評議会)の連合勢力

【支援または同調する外国】フーシ派支援：イラン、

ハーディー暫定政権支持：サウジアラビア有志連合軍、UAE(南部独立派、但し現在は撤退)

#### (B)リビア内戦

【問題点】「アラブの春」(2011年)によるカダフィ政権崩壊後の東部勢力と西部勢力の主導権争い。

【当事者】西部トリポリ拠点のシラージュ暫定政権 対 東部ベンガジのリビア国民軍(司令官：ハフタル)

【支援または同調する外国】シラージュ暫定政権支持：トルコ、カタール、イタリア、

リビア国民軍支援：エジプト/UAE/仏/サウジ。

#### (四)領土・領海に関する紛争

##### (A)東地中海資源開発競争。

【問題点】トルコ、キプロスの東地中海沖合の天然ガス開発をめぐる領海・EEZ(排他的経済水域)係争。

【当事者】トルコ 対 キプロス/ギリシャ

【支援または同調する外国】トルコ側：リビア(シラージュ暫定政権)、ロシア。

キプロス/ギリシャ側：イスラエル/仏。

##### (B)天然ガスパイプラインをめぐる紛争

【問題点】西欧への天然ガス輸出を目指すパイプライン敷設競争。

【当事者】トルコ/ロシア(黒海 South Stream) 対 イスラエル/ギリシャ/キプロス(EastMed)

【支援または同調する外国】(特になし)

##### (C)ペルシヤ湾3島帰属問題

【問題点】ペルシヤ湾(アラビア湾)沖合の3島の領有権をめぐる紛争。

【当事者】イラン 対 UAE

【支援または同調する外国】UAE側：サウジアラビアなどのGCC諸国。

(五)西ヨーロッパ諸国とトルコの対立

(A)NATO軍事同盟

【問題点】東西冷戦時代に旧ソ連に対抗するために創設されたNATOの中でイスラム圏唯一のメンバーであるトルコ。ユーラシア大陸の地政学の変化的ため同国の役割が変質しつつある。

【当事者】トルコ 対 米／英／独／仏

【支援または同調する外国】トルコ側：ロシア

(B)EU加盟問題

【問題点】EU拡大の流れから取り残されたトルコ。

【当事者】トルコ 対 現EU加盟国

【支援または同調する外国】トルコ側：ロシア

(C)シリア・アフガニスタン難民問題

【問題点】トルコを経由してヨーロッパに向かうシリア、アフガニスタンの難民。人道的見地で対処するドイツと治安悪化を懸念するギリシャ、イタリア、仏などの受け入れ拒否国の対立。

【当事者】トルコ 対 西欧諸国

【支援または同調する外国】(特になし)

上記のほかにもすでに勝敗が決着、あるいは帰趨が明らかになっているものの、その古傷が尾を引く下記のような問題がある。

・イラン／イラク戦争(1979～1988年)

・イラクのクウェイト侵攻と湾岸戦争(1990～1991年)

・9.11米国同時多発テロ(2001年)(イスラム・テロ問題)

・イラク戦争(2003年)

・シリア内戦(2018年～)(イスラム国IS壊滅後)

3.自ら紛争を抱え込むトルコ

前項では現代の中東が抱える紛争について、テーマ毎に紛争当事国とそれに同調または反対する国々の関係を取り上げた。本項ではそのうちトルコが関与している紛争とその相手国並びに第三国との関係を取り上げ、入り乱れる合従連衡の様相を探ってみる。

## (1) 資源問題

トルコは中東諸国の中では域内の紛争問題に最も多く関与している国と言えよう。最近特に目立つのは東地中海の経済水域(EEZ)をめぐる紛争である。東地中海はエジプト及びイスラエルが大型ガス田を発見して以来北部のキプロス島周辺海域が資源開発競争のホットスポットになっている。また天然ガスを中東からヨーロッパに送る海底パイプラインも計画中である。

キプロス島は独立した共和国であるが、北半分のトルコ系住民居住区は北キプロス・トルコ共和国として独立を宣言している。但し国際社会の中で独立を認めているのはトルコだけである。トルコはロシアとアフリカの大陸棚が境界を接していることを理由に東地中海一帯の資源開発の権利を主張している。トルコはキプロス共和国の主張を無視して海軍の護衛のもと、資源探査船(リグ)により天然ガスの試掘を行った。これに対してキプロス政府が抗議し、また同地域ですでに探鉱作業に着手しているフランスのTotal社をバックアップするフランス政府が強い警告を発している。

またガス海底パイプラインについてはイスラエル、エジプトがギリシャ経由ヨーロッパ向け輸出のための EastMed パイプラインを計画しており、陸上パイプラインでのヨルダンへの輸出を含めて関係国が東地中海エネルギーフォーラムを結成している。トルコは同計画を阻止するため、リビアのシラージに暫定政権(首都:トリポリ)と条約を締結、地中海で両国の大陸棚経済水域(EEZ)が接続している。またトルコもロシア産ガスの黒海海底パイプラインを建設中であるが、接続地点がギリシャまたはブルガリアになる。このためトルコとしては地中海経由のルートを確保したい思惑もある。

トルコは資源問題ではギリシャ/キプロスを敵に回しており、その背後にはフランス、エジプトが控えている状況である。一方でエジプトとは OIC(イスラム協力機構)の同盟国であり、フランスとは NATO(北大西洋条約機構)で軍事協力関係にある。トルコにとって敵(ギリシャ)の味方が敵というわけではないのである。

## (2) 経済同盟(EU)及び軍事同盟(NATO)



トルコはEU加盟を申請してすでに長い年月が経過しているにもかかわらず、後から申請したハンガリーなど東欧諸国がすでに正式メンバーになっている。トルコ国内には反EU感情が生まれ、EU加盟は絶望的との見方が広がっている。一方、トルコはNATO創立以来のメンバーである。東西冷戦が解消した現在ではNATOの存在意義は変質しているが、米国はロシアの脅威を主張、その最前線としてのトルコの価値を高く評価している。

トルコはこれを念頭に、米国に対して最新鋭ステルス戦闘機 *F-35* の購入を申し込んでいるが、米国（およびイスラエル）の反対により実現していない。トルコは米国に揺さぶりをかけるためロシアから地対空ミサイル *S-400* を導入する意向を表明、米国・トルコ間で駆け引きの真っ最中である。

EU、NATO問題の根底にあるのはトルコが両同盟の中で唯一のイスラム国家だということに尽きよう。米国および西ヨーロッパに根強いイスラムフォビア（イスラム嫌悪）があることは否定できず、イスラムの価値を標榜するエルドアン政権にとっては逆に譲ることのできない一線であることが問題を複雑化している。

### ③ シリア問題

シリアは一時IS（イスラム国）、アサド政権及び反政府組織による三つ巴の内戦で600万人近い難民が国外に避難、このうちトルコは約400万人を受け入れている。多くの難民はギリシャ、ブルガリアを経由してドイツなど西ヨーロッパに移住を希望している。しかし難民の急増で国内不安が生じたドイツなど北ヨーロッパ諸国が入国規制を始めるや、ギリシャはトルコとの国境を封鎖した。シリア内戦はほぼ終結し難民の増加は収まったが6トルコ国内では今も多数の難民がキャンプ生活をしておりトルコ政府の大きな負担になっている。

トルコ政府は人道問題としてEUに移住受け入れを迫っているが、トルコと歴史的に絆が深いドイツ以外のギリシャ、イタリア、仏などは消極的である。

### ④ クルド民族問題

クルド民族はトルコ、シリア、イラク、イランの4カ国にまたがり4,600万人が居住している。クルド組織としてトルコにはPKK、シリアにYPG、イラクにはクルド愛国同盟がある。彼らはそれぞれの国の中央政府に対して独立あるいは自治権拡大闘争を繰り広げている。

トルコ政府はPKKをテロ組織と見なし徹底した弾圧政策をとっているが、その反面シリアのYPGとはむしろ協調する姿勢が見られる。理由のひとつはPKKとYPGの分断を図りクルド民族の大同団結を阻止するためであり、もう一つの理由は隣国シリアの内戦でアサド政権の弱体化を狙っている。反アサド勢力はいくつかの弱小勢力の連合体としてロシアが支援するアサド政権に対抗しており、米国、サウジアラビアも別々の反政府勢力を支援している。反政府勢力は内戦の初期段階ではアサド政府軍と一体でIS（イスラム国）勢力を駆逐した。しかしIS壊滅後、政府勢力は

烏合の衆の弱みを暴露し、ロシアの支援を得たアサド政権が復活している。

結局現在のトルコはシリアに関しては上記の難民問題でEUの行動を促し、クルド問題については自らシリア領内に越境し同国内に潜在するPKKの掃討作戦を行っているところである。

### ⑤ トルコが当事者の一方に肩入れしているケース

上記はトルコ自身が当事者となっている問題であるが、トルコが当事者の一方に肩入れすることにより別の国と敵対関係になっているケースとして、カタール問題、リビア内戦問題がある。



カタール問題とはサウジアラビア、UAE、バハレーンのGCC3か国とエジプトの計4か国がイスラム・テロ組織と断定するイスラム教スンニ派のムスリム同胞団に融和的な姿勢を示すカタールと断交したことである。同じGCCのオマーン及びクウェイトは中立の立場をとったため、GCC6か国の中でカタールは完全に孤立する重大危機に陥った(2017年)<sup>9</sup>。この時、トルコがカタールに支援の手を差し伸べたため、トルコは4か国との関係が悪化して現在に至っている。関係する国々はいずれもスンニ派である。にもかかわらず対立するのは政治の9支配体制の違いにある。即ち、エジプトの軍政は「アラブの春」で一度同胞団に敗れ、一年後に再びクーデタで7軍による支配体制を回復している。サウジアラビア、UAE、バハレーンはスンニ派国家を標榜しながら、実際は絶対君主制の世俗国家であり、4か国は世俗制強権国家と言う共通点を有している。エジプトも湾岸王制国家も体制を脅かすイスラム同胞団を強く警戒している。一方、トルコは大統領直接選挙制の世俗国家であるが、イスラム同胞団と親和性が強い与野政党が権力を握っており、君主制国家でありながらイスラム同胞団に寛容なカタールを支援し、4か国と対立しているのである。

リビア内戦問題へのトルコの関与は冒頭に触れた東地中海大陸棚のEEZ協定が動機となり、トルコはトリポリのシラージュ暫定政権を支援する形となっている。リビア内戦のもう一方の当事者であるベンガジを拠点とするリビア国民軍に対してはエジプト、UAE、サウジアラビア、仏、ロシアが支援国となり、リビア内戦は両者の代理戦争となっている。

上記の通りトルコの立ち位置は問題によって少しずつ異なるが、全般的に見て言えることは、トルコの主たる敵対者は域内ではサウジアラビア及びエジプト、域外ではEUであると言える。そして米国とロシアはケース・バイ・ケースでトルコの味方または敵方となり、あるいはゲームに対して

参加しないか、中立の立場をとっている。

以上

本件に関するコメント<sup>1</sup> 意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)

---

<sup>1</sup>(参考レポート)

「カタル G C C 離脱(Qatariexit)の可能性も：カタルとサウジ国交断絶」(2017年7月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0416GCCC-DI-spute2017July.pdf>

「いよいよ G C C 解体か？ー G C C 首脳会議を振り返って」(2017年12月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0429GCCC-SummitDec2017.pdf>

「サウジとカタルに決定的な亀裂」(2018年12月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0456GCCC-SummitDec2018.pdf>

<sup>2</sup>「混迷深まるサウジアラビア(その3)：暗転するサウジ外交」(2018年3月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0434Ksa2018-3ForeignPolicy.pdf>

「サウジ・カタル・U A E 間の磁場に微妙な変化」(2019年12月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0490GCCC-Summit2019.pdf>

<sup>3</sup>「天然ガスに国際政治が絡み大荒れの東地中海」(2020年2月)

<http://mylibrary.maeda1.jp/0494EastMedPipeline.pdf>

<sup>4</sup>「天然ガスに国際政治が絡み大荒れの東地中海」(2020年2月)参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0494EastMedPipeline.pdf>

<sup>5</sup> Turk ー sh drilling ship steps back in East Med, opening door to talks

2020/9/13 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1733801/world>

<sup>6</sup> A never-ending eastern Med saga of brinkmanship

2020/8/14 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1719511/middle-east>

<sup>7</sup> Deal agreed for EastMed undersea gas pipeline to Europe



2020/1/2 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1607616/business-economy>

<sup>8</sup> East Mediterranean states formally establish Egypt-based gas forum  
2020/9/22 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1738541/middle-east>

<sup>9</sup> Turkey-Libya maritime deal rattles East Mediterranean  
2019/12/25 Reuters

<https://www.reuters.com/article/us-turkey-libya-eastmed-tensions-explain/turkey-libya-maritime-deal-rattles-east-mediterranean-idUSKBN1YT0JK>

<sup>10</sup> Greece announces agreement to demarcate maritime borders with Egypt  
2020/7/18 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1706686/middle-east>

<sup>11</sup> Blow to Erdogan as US boots Turkey out of F-35 strike fighter program  
2020/7/19 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1706781/middle-east>

<sup>12</sup> 「カタールとサウジ国交断絶」(2017年7月)参照

<http://mylibrary.maedal.jp/0416㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿>